

講義コード	2N026011
講義名	チーム医療論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4404
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員

中納美智保

講義の目的

患者への安全で効果的な医療提供には、保健・医療・福祉の専門職による「連携と協働によるアプローチ」が必要不可欠である。チーム医療の必要性を理解し、チーム医療で貢献できる看護職の役割について考える。

到達目標

1. チーム医療の必要性について述べるができる。
2. チーム医療における看護職の役割について説明できる。
3. ディスカッションを通して看護チームでの自分の課題が明確にできる。

授業計画表

授業計画

1. チーム医療とは何か-患者の立場からチーム医療を考える
2. 看護組織におけるチームでの役割
3. 医療チームについて、医療チームでチームワークを発揮するために必要な能力
4. カンファレンスの在り方、リーダーシップ・メンバーシップ
5. チーム医療で活躍している看護職の実際
6. チーム医療における他職種の役割、他職種連携を高めるチームマネジメント
7. チーム医療において拡大する看護師の役割、チーム医療の評価方法

成績の評価

筆記試験80%・ディスカッションおよび平常点20%

自己学習

有意義なディスカッションができるように準備する

履修上の注意

自分の意見を伝えると共に他者の意見を聞き、考えることがチーム医療の基本となる。この科目はディスカッションを取り入れて授業を行う。

テキスト

プリント

参考文献

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み、5限目（事前にメールで連絡をお願いします）

研究室

C708研究室

授業用E-mail

nakano@kansai.ac.jp

講義コード	2N067012
講義名	英語表現法Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 瀬戸 義隆	指定なし

担当教員

瀬戸 義隆

講義の目的

多文化社会とよばれる現代社会では自分たちと異なる言語や価値観を持つ人々と出会いコミュニケーションをとる機会があります。看護・医療の分野においてもそのような流れを避けることは出来ません。英語はそのような人々とコミュニケーションをとるために有益な道具の一つとして位置付けられます。本講義では、英語を「読む・聞く・書く・話す」4技能を高めること、及び、また、教科書でとりあげられている様々な文化背景に関する事例に関して自己の意見をまとめると共に、グループでのディスカッション・作業を通して総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

到達目標

教科書でとりあげられるトピックや他者の意見を理解し、その内容や、その内容に関する自分の意見を英語で簡潔に説明することが出来るようになる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション・自己紹介
2. Chapter1 English as an International Language
3. Chapter2 The Benefits of Bicultural People
4. Chapter3 Japanese perspectives
5. Chapter4 People's Needs
6. Chapter5 Creative Jobs (1)
7. Chapter6 Creative Jobs (2)
8. Chapter7 Gaps between Reality and Ideals
9. Chapter8 Various Reactions to Money
10. Chapter9 Getting out of an Uneventful Life
11. Chapter10 Skills for Immediate Responses
12. Chapter11 Distinctive Responses
13. Chapter12 British and American Styles of Communication

14. Chapter13 British and American Humour

15. Chapter14 Different Perspectives

※受講人数・授業内容の理解によって授業の進度は変更になる場合があります。

成績の評価

平常点(出席・小テスト・授業内の作業など): 40%

課題: 60%

自己学習

教科書の予習・復習

与えられる課題への取り組み

履修上の注意

テキストと辞書は必ず持参すること。

テキスト

「国際交流のための英語」(Acquiring English as an International Language)小林純子、Brian Bond (三修社)

参考文献

授業内で紹介します。

講義コード	2N068012
講義名	英語表現法Ⅳ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1305
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 板垣 浩正	指定なし

担当教員

板垣 浩正

講義の目的

医療に関する最新の話題を読み、聞き、書き、話す技法を向上させながら、医療の現場に必要な基本用語を習得していくことを目的とします。毎週担当者・担当グループを決めて、テキストのトピックについて発表してもらいます。さらに、グループディスカッションを行い、発信能力を高めます。授業の進度は、受講生の理解に応じて変更する場合があります。

到達目標

医療現場に必要な基本的な英語の内容について、自分の力でまとめることができる。
自分の意見を整理して、1～2分程度の英語で伝えることができる。
トピックについて、グループでディスカッションをし、その内容を、簡易的な英語であれば、発表することができる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Basics for Health Care Professionals
3. Unit 2 The Digestive System: How It Works
4. Unit 3 The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood
5. Unit 4 The Neurological System: Neuroscience
6. Unit 7 The Skeletal System: Bone Health
7. Unit 8 The Immune System: Allergies
8. 中間考査
9. Unit 10 Preventing the Spread of Infectious Disease
10. Unit 11 Cancer Detection
11. Unit 12 Robotic Surgery
12. Unit 13 From Genetic Research to Personalized Medicines
13. Unit 14 Clinical Research
14. Unit 15 Health Care for the Aging; Geriatric Nursing

15. 期末考査

成績の評価

平常点60%、期末試験40%

ただし、4回以上欠席した場合の単位は一切認めません。

自己学習

授業内で指示された箇所についての予習、復習。

特に、担当に指名された範囲の予習は成績評価に大きく影響します。

履修上の注意

テキスト・辞書は必ず持参すること。

授業活動への積極的な参加が重要です。

テキスト

「医療の世界—基本情報と表現演習(Understanding Health Care)」 (朝日出版社) 西村月満他。

参考文献

授業内で紹介します。

講義コード	2N071011
講義名	疫学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2306
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 笠松 隆洋	指定なし

担当教員

笠松 隆洋

講義の目的

疫学は人間集団を対象に、疾病に関わる要因を究明し因果関係を明らかにすることを目指しており、健康に関する諸問題に対する有効な対策樹立に有効な学問であることを理解する。

到達目標

疾病の予防、健康の増進を目的とした保健活動を科学的に行えるようにするための知識および技術を習得するとともに、種々の健康情報を正しく理解するための能力を身に付ける。

授業計画表

授業計画

1. 疫学の定義・エピソード
2. 基本的用語の理解と因果関係の考え方
3. 疾病頻度の表し方（有病率、罹患率、累積罹患率）
4. 疫学頻度の表し方（死亡率、致命率、相対頻度）
5. 曝露の効果を表す指標（相対危険と寄与危険）
6. 曝露の効果を表す指標（寄与危険割合、人口寄与危険）
7. 疫学調査方法（記述疫学）
8. 疫学調査方法（分析疫学）
9. 疫学調査方法（介入研究）
10. 疫学研究の質（母集団と標本、偶然誤差と系統誤差）
11. バイアス（選択バイアス、情報バイアス、交絡）
12. 交絡の制御方法
13. 年齢調整と標準化（直接法）
14. 年齢調整と標準化（間接法）
15. スクリーニング検査

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価します。

自己学習

講義終了後に教科書及び配布した資料に目を通し復習するとともに、各章末にある保健師国家試験の過去問題を解いておいて下さい。

履修上の注意

授業中の私語ならびに授業途中の退席を禁止します。

テキスト

「基本からわかる看護疫学入門（第2版）」（医歯薬出版）

大木秀一

参考文献

「はじめて学ぶやさしい疫学(改訂第2版)」（南江堂）

日本疫学会

「基礎から学ぶ楽しい疫学(第3版)」（医学書院） 中村好一

講義コード	2N087021
講義名	看護にいかすツボ刺激
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4402
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 英世	指定なし

担当教員

松浦英世

講義の目的

東洋医学では「病気の反応点であり、治療点である」と定義されているツボを「肩こり」や「腰痛」「足のむくみ・つり」「めまい」「頭痛」その他、床ずれの予防や乳腺症の予防等を交えてそのツボの部位と効果について解説し、マッサージ実技も交えて看護技術の一つとして応用可能な、手指による刺激方法についても概説し、総合的に患者さんへの触れかた（手当）を体験する授業をします。

到達目標

各疾患にあわせたマッサージ技術の習得
 個々の患者さんにあったマッサージ実技の習得
 患者さんへの触れ方、手当て、言葉遣いなど身につける

授業計画表

授業計画

1. マッサージの基本手技および経穴への手指刺激法
2. 肩こり（ねちがいなど）へのマッサージおよびツボ刺激
3. 頭痛・耳鳴りなどへのマッサージおよびツボ刺激
4. 疲れ目・三叉神経痛などへのマッサージおよびツボ刺激
5. 腰痛（床ずれなど）へのマッサージおよびツボ刺激
6. 内科疾患（胃痛・便秘異常など）へのマッサージおよびツボ刺激
7. 内科疾患（月経痛・泌尿器疾患など）へのマッサージおよびツボ刺激
8. 内科疾患（呼吸器など）へのマッサージおよびツボ刺激
9. 胸部疾患（乳腺症など）へのマッサージおよびツボ刺激
10. 五十肩・テニス肘等に対するマッサージおよびツボ刺激
11. 上肢（手のしびれ・腱鞘炎）へのマッサージおよびツボ刺激
12. 坐骨神経痛に対するマッサージおよびツボ刺激
13. 下肢（足のしびれ・むくみ・つりなど）へのマッサージおよびツボ刺激
14. 片麻痺に対するマッサージおよびツボ刺激

15. 治療の総括

成績の評価

実習時の行動、実習態度、平常点も加味して、レポートにより評価します。

自己学習

一般的なマッサージ理論やツボ刺激など、図書室にあるやさしく説明した本などを読み、自己の学びたいものを整理、確認しておいてください。

パウダー使用を使用します。

履修上の注意

実習部位によっては皮膚に直接行うこともあるので、薄着になっていただくことがあります。手指を清潔にし、爪は短めに切っておいて下さい。

テキスト

1. 「スポーツマッサージ」 (KATA実技指導員著)
2. 配布資料

講義コード	2N090011
講義名	看護過程論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3104
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員

中納美智保

講義の目的

看護は、ありゆる健康レベルにある人のニーズに対応し、その人らしい生活を支援するために看護過程を用いて実践する。この科目は人々の健康問題を解決する方法である看護過程について基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 看護過程の意義とそのプロセスを説明することができる。
2. 紙上事例を用いて看護過程の基礎的な展開ができる。
3. 模擬的な電子カルテを用いて情報収集の方法を習得する。

授業計画表

授業計画

- 1.看護過程と問題解決思考
- 2.看護過程（ゴードンの11の機能的健康パターン）
- 3.看護過程のプロセスと事例（片麻痺の患者の展開）
- 4.アセスメントのための基礎的知識（生体検査と生体情報のモニタリング）
- 5.アセスメントのための基礎的知識（検体検査）
- 6.アセスメント1（情報収集の種類と方法）
- 7.アセスメント2（情報の整理）
- 8.アセスメント3（情報の分析・解釈の統合）
- 9.全体像の作成
- 10.優先順位の決定
- 11.看護問題の記述
- 12.期待される結果
- 13.看護計画の立案1
- 14.看護計画の立案2
- 15.実施・評価
- 16.看護記録の意義と必要性

- 17.情報の必要性と種類、電子カルテの基本的操作
- 18.活動-運動に問題がある患者の事例展開 (情報収集)
- 19.活動-運動に問題がある患者の事例展開 (情報の分析と解釈)
- 20.活動-運動に問題がある患者の事例展開 (全体像、看護問題の特定)
- 21.活動-運動に問題がある患者の事例展開 (期待される結果)
- 22.活動-運動に問題がある患者の事例展開 (計画立案)
- 23.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報収集)
- 24.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報の分析と解釈)
- 25.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (全体像、看護問題の特定)
- 26.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (期待される結果)
- 27.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (計画立案)
- 28.栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (実施・評価)
- 29.看護診断の基礎
- 30.クリニカルパスの概要

成績の評価

前期 (筆記試験80%・演習記録と平常点20%)、後期 (筆記試験80%・演習記録・平常点20%)を合わせて評価する。

履修上の注意

課題を用いてグループワークで進めるので、課題は主体的に取り組む。

テキスト

- 1.「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」 (ヌーベルヒロカワ) 江川隆子編集
- 2.「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院) 有田清子他
- 3.「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院) 有田清子他
(2・3は1年次に購入した物)

参考文献

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

昼休み、5限目 (事前にメールで連絡ください)

研究室

C708研究室

授業用E-mail

nakano@kansai.ac.jp

講義コード	2N094011
講義名	看護倫理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N2-4101
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員

辻幸代

講義の目的

看護専門職あるいは看護学生として、臨床で遭遇するさまざまな倫理的問題を解決するための知識を学び、本当によい「看護」とは何かを考えることである。

到達目標

1. 看護専門職に求められる倫理的責任と倫理的行動の基準について説明できる。
2. 対象者の権利とは何かを説明することができる。
3. 事例を通して看護について倫理的側面を考えることができる。
4. 何がよい看護なのかについて意見を言うことができる。

授業計画表

授業計画

1. 倫理を学ぶ意義、自分の価値観について
2. 臨床における倫理問題の概要について
3. 看護倫理に関する重要な概念について
4. 看護の倫理綱領について
5. 看護職の倫理的責任について
6. 看護実践における倫理的問題（さまざまな人々の価値観の対立）について
7. 看護実践における倫理的問題（倫理的ジレンマ）について
8. まとめ

成績の評価

期末試験80%とミニレポートを含む平常点20%で評価する。

自己学習

1. 生命倫理で学修した内容を振り返って整理しておく。
2. 授業ごとにミニレポートの記載を求めるので復習をして臨む。

履修上の注意

期末試験は、3分の2以上の出席がないと受験できない。

テキスト

「系統看護学講座 専門分野1 看護学概論」(医学書院)1年次の際に購入したもの

参考文献

1. 「看護実践の倫理 第2版 倫理的意思決定のためのガイド」 サラ T. フライ, メガン-ジェーン・ストーン著 片田範子, 山本あい子訳, 日本看護協会出版会
2. 「事例でまなぶ ケアの倫理」 ナーシング・サプリ編集委員会編, メディカ出版

オフィスアワー

水曜日 (12:10~13:10)

研究室

5号館7階C707研究室

授業用E-mail

s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	2N102011
講義名	基礎看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3110
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

担当教員

辻幸代・中納美智保・松下直子・山根木貴美代

講義の目的

患者とのかかわりを通して患者の理解を深め、必要な看護に気づき実践していくためのプロセスを学ぶ。

さらに実習を通して看護学生としての倫理観を高める。

到達目標

1. 患者とのかかわりを通して日々の必要な看護援助を考え、実施することができる。
 - 1) 日々の患者とのかかわりを通して患者の状況を捉え、必要な看護に気づくことができる。
 - 2) 患者にとっての強みに気づくことができる。
 - 3) 患者の状況に応じてかかわり方を変化させることができる。
 - 4) 患者の状況にあった看護援助を実施することができる。
 - 5) 実施した看護を記録することができる。
2. 受け持ち患者の理解を深めることができる。
 - 1) 患者とのかかわりやカルテから必要な情報が収集できる。
 - 2) 情報を整理し科学的思考に基づいたアセスメントができる。
 - 3) 患者の看護上の問題を見出すプロセスが理解できる。
3. 看護学生としての適切な態度・責任ある行動をとることができる。
 - 1) チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。
 - 2) 医療従事者と適切なコミュニケーションをとることができる。
 - 3) 受け持ち患者のプライバシーを守ることができる。
 - 4) 清潔感のある身だしなみに整えることができる。
 - 5) 実習を振り返り、学んだことを他者に伝えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照
- 2.
- 3.

- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

成績の評価

実習の取り組み・自己学習・実習記録を総合的に評価する。

自己学習

実習オリエンテーションで説明する。

履修上の注意

- 1.看護学実習要綱と基礎看護学実習Ⅱの要項をよく理解しておく。
- 2.健康管理に留意し、欠席等がないように臨む。

テキスト

テキストは指定しない。

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

研究室

C708研究室

授業用E-mail

nakano@kansai.ac.jp

講義コード	2N129021
講義名	公衆衛生学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2304
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 笠松 隆洋	指定なし

担当教員

笠松 隆洋

講義の目的

健康の保持増進及び快適な生活環境を確保するための方策を学修する。

到達目標

健康への関心を深めるとともに、主体的に健康づくりに取り組む態度を養う。

授業計画表

授業計画

1. 健康の概念と公衆衛生学
2. 人口静態統計
3. 人口動態統計
4. 保健統計、傷病統計
5. 疫学
6. スクリーニング
7. 母子保健、成人保健
8. 成人保健、高齢者保健
9. 感染症 (1)
10. 感染症 (2)
11. 食品衛生
12. 国民栄養
13. 環境保健 (1)
14. 環境保健 (2)
15. 産業保健

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価します。

自己学習

講義終了後に教科書及び配布した資料に再度目を通し復習するとともに、各章末の演習課題を解

いておいて下さい。

履修上の注意

授業中の私語ならびに授業途中の退席を禁止します。

テキスト

「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生(第8版)」 (金原出版)

松木秀明編

「国民衛生の動向(2016/2017)」 (厚生労働統計協会)

参考文献

「シンプル衛生公衆衛生学」 (南江堂) 小山洋、辻一郎

「これからの公衆衛生学(改訂第2版)」 (南江堂) 田中平三

講義コード	2N132011
講義名	公衆衛生看護学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3409
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾恭子

講義の目的

地域の人々が健康を保持・増進し疾病を予防できるよう、また疾病や障害をもちながらもその人らしく家族とともに地域で生活できるよう支援を行う公衆衛生看護の理念、活動目的、技法、保健活動の展開方法、保健所・保健センターで働く保健師の役割について、歴史的変遷をふまえて理解する。さらに、地域の保健医療福祉システムについて学ぶとともに、学校および企業における保健師の活動について知る。

到達目標

1. 公衆衛生看護の理念および公衆衛生看護に用いる概念について理解する。
2. 公衆衛生看護活動の目的、技法、保健活動の展開方法について理解する。
3. 保健所・保健センターで働く保健師の役割を理解する。
4. 学校保健および産業保健における保健師の活動を知る。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、健康と生活、地域
2. 公衆衛生看護とは
3. 公衆衛生看護の主要概念
4. ノーマライゼーション
5. 公衆衛生看護の活動方法①
6. 公衆衛生看護の活動方法②
7. 公衆衛生看護の活動方法③
8. 公衆衛生看護の活動方法
9. 公衆衛生看護の歴史的変遷①
10. 公衆衛生看護の歴史的変遷②
11. 母子保健と地域ケアシステム
12. 生活習慣病予防とヘルスプロモーション

13. 産業保健における保健師の活動
14. 学校保健における養護教諭の活動
15. 公衆衛生看護活動の展開

成績の評価

試験70%、レポート20%、平常点10%

自己学習

公衆衛生について復習しておいてください

履修上の注意

1. 当該科目は「キャリア教育科目」に指定されています。看護師だけでなく、保健師も将来の職業の選択肢になるよう保健師の機能や役割について、また、学校や事業所等の様々な活動の場について紹介します。
2. 皆さん自身が住んでいる地域に関心を持ち、自分自身または家族の生活と関連させて公衆衛生看護を捉えてください。
3. 受け身にならず主体的に学習し、自分自身の考えを深めてください。
4. 必要時以外の携帯電話の使用は禁止し、私語は厳禁とします。

テキスト

1. 「第4版 公衆衛生看護学jp」 (インターメディカル) 荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向2016/2017」 (厚生労働統計協会)

参考文献

1. 「最新公衆衛生看護学 第2版 総論 2017年版」 (日本看護協会出版会) 宮崎美砂子他著
2. 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 (医学書院) 標美奈子他著
3. 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論」 (メヂカルフレンド社) 標美奈子他著
4. 「無名の語り 保健師が「家族」に出会う12の物語」 (医学書院) 宮本ふみ著

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

5号館7階C711研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N152012
講義名	子どもの健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3205
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美他

講義の目的

子どもは成長発達の途上にあり、子どもの健康は健やかな成長発達を遂げることでもある。子どもは、子どもの成長発達すべき力と子どもを取り巻く環境との相互作用の中で成長発達を遂げる。この科目では、成長発達の総論的な内容とライフサイクルからみた各子ども期の段階と特徴を理解し、子どもへの理解を深める。

到達目標

1. 成長発達の原理原則と基礎知識が理解できる。
2. ライフサイクルからみた子ども各期の特徴が理解できる。
3. 子どもの成長発達と環境との相互作用の必要性を説明することができる。

授業計画表

授業計画

1. 生涯人間発達からみた各子ども期の特徴
2. 成長発達の一般的原則と基礎知識
3. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達①
4. 乳児期、幼児期の精神的発達①
5. 乳児期、幼児期の精神的発達②
6. 乳幼児期の日常生活と社会的発達
7. 学童期、思春期の特徴
8. 子どもに関する諸統計

成績の評価

期末試験(95%) 平常点(5%)

自己学習

疑問に思っていることについては、まず自分で考える、調べる習慣をつける。

履修上の注意

受け身にならずに、学習の主体であることを自覚して受講する。

テキスト

・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学¹ 医学書院 奈良間美保他

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日。 必要があれば事前に連絡下さい。

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	2N161011
講義名	女性の健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3201
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝

講義の目的

母性の基礎となる概念について、対象の特徴や対象を取り巻く社会の変遷と現状の問題点について理解を深め、母性看護の課題や役割について学修する。また、リプロダクティブヘルスの水準を維持・増進し母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するため、対象者の持てる力が引き出せるよう促し、生活を整えるために重要な関係法規を学修する。

到達目標

母性看護の対象者や、女性の健康への支援に必要な基礎的な知識を修得することができる。

授業計画表

授業計画

1. 母性看護の主要な概念
2. 母性看護における倫理的配慮・統計
3. 母性看護における法律・子育て支援施策
4. 生殖器と性文化のメカニズム
5. 性周期,性行動・性反応
6. 思春期・成熟期女性の健康と看護
7. 妊孕性に関わる健康問題と看護
8. 更年期・老年期女性の健康と看護

成績の評価

試験80%・レポート10%・小テスト10%にて評価する。

自己学習

指定されたテキストでの事前学習は必須である

履修上の注意

学修の主体者であることを自覚し、積極的に履修することを期待する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

参考文献

- ・系統看護学講座専門 24 母性看護学概論：医学書院
- ・国民衛生の動向：厚生労働統計協会
- ・母性看護学Ⅱ：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前の連絡のこと

研究室

C703研究室 田中静枝

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	2N169023
講義名	情報科学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 常山 正幸	指定なし

担当教員

常山 正幸

講義の目的

この科目はPCの基本的な操作・知識を身に付けることを目的とする。PCは人間の脳の許容を超えた処理速度を持ち、その応用は多岐に渡るが、我々がその扱いに無知では不利益ですらある。学生諸君は卒業後、仕事先のみならず日常生活でも否応なくPC等の情報処理機器に触れるはずである。この科目を、そのような予想される将来の状況に対応できるようになるための一歩目と捉えてもらいたい。

到達目標

PCの基本操作から始めて、Microsoft Officeを用いて文章・画像処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要な力を身に付けることを目指す。理屈はわからずとも望む結果を得るための操作手順・知識を身に付けてもらいたい。

授業計画表

授業計画

1. 情報社会のセキュリティ、PCの基本操作
2. ワードプロソフトの実習－文書作成・編集
3. ワードプロソフトの実習－表の使い方
4. ワードプロソフトの実習－図の使い方
5. 表計算ソフトの実習－表のレイアウト
6. 表計算ソフトの実習－関数
7. 表計算ソフトの実習－グラフ
8. 表計算ソフトの実習－データベース
9. 表計算ソフトの実習－効率化
10. プレゼンソフトの実習－スライドの作り方1
11. プレゼンソフトの実習－スライドの作り方2
12. 演習1(練習問題)
13. 演習3(練習問題)
14. 演習2(練習問題)

15. まとめ

成績の評価

毎回授業中に与える課題に対する提出物の成績（60%）と試験の成績(40%)によって評価を行う。課題を授業中に完成できなかった場合でも、出来たところまでを提出すること。欠席した回の課題の後日提出に関して、課題提出は原則これを認めない。

自己学習

各実習中の課題を時間内に身に付けてもらうことが理想だが、消化できていないことがあれば復習するなり補填する必要がある。実習内容のみならず講義に関する質問がある場合はm.tsuneyama@rri.kyoto-u.ac.jpまで連絡する。

履修上の注意

この講義はPCを常に操作する実習形式を取るので、欠席しないこと。多くの課題は互いに関連性が大きく、後半に進むにつれてそれまでに扱った内容が容赦なく出てくるため、一度の欠席でもその後の習熟度に強く影響すると認識してほしい。

テキスト

実践ドリルで学ぶOffice活用術（noa出版）

参考文献

特になし

授業用E-mail

m.tsuneyama@rri.kyoto-u.ac.jp

講義コード	2N175011
講義名	心の健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3307
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

川端明雄

講義の目的

心の健康は、いきいきと自分らしく生きるための重要な条件であり、生活の質にも影響する。心の健康の保持・増進に向けて、心の構造と機能、ライフサイクルに起こりうる問題、現在社会における心の問題などの基本的な理解をする。精神医療の歴史の変遷をふまえ、個人の尊厳と権利擁護、社会参加を目指した精神看護の必要性、意義、目的を明確にする。

到達目標

1. 心の健康を維持機能と問題が起こりうる要因を理解する。
2. 心を病んだ人々への精神医療と看護の変遷を理解する。
3. 個人の尊厳・権利擁護、社会参加の必要性を理解し、精神看護の目的を明確化する。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
正常と異常、心の健康とは、精神を病むとは 精神看護の目的
偏見・差別・スティグマ 精神疾患や症状の捉え方（当事者によりそうための理解）
2. 精神医療と看護の歴史の変遷
欧米諸国と日本の精神医療
3. 精神保健医療福祉の制度
社会保障と権利擁護の必要性、精神障害者の生活を安定させる制度
4. 心の構造と機能と発達
自我と防衛機制、コーピング、PTSD
5. ライフサイクルと起こりうる問題
産後うつ病、児童虐待、ひきこもり、不登校、過労死、更年期・高齢期うつ病、認知症
6. 事例から学ぶリエゾン精神看護
7. 看護師と心の健康問題
職業生活におけるストレス
8. 多職種チームと精神看護の果たす役割

成績の評価

試験90%、平常点10%にて評価する。

自己学習

新聞や書籍、各種メディアで報道される心の健康問題に関心をもち、授業内容と関連させて考えを深める。

映画『ビューティフルマインド』『心のままに』『カッコウの巣の上で』の視聴を勧める。

履修上の注意

日頃の人間関係などで困っていることや悩みに気づけることも大切。人の心の理解は簡単ではないが、少しでもわかりたいとの思いをもって受講して欲しい。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

参考文献

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

研究室に在室している場合にはいつでも対応します。

研究室

5号館7階C702研究室（和田）5号館7階C721研究室（川端）

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	2N282011
講義名	日常生活活動学 (ADL)
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N2-2107
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 米田 浩久	指定なし

講義の目的

日常生活活動 (ADL) とは、日々の生活でおこなうあらゆる動作を指す。看護学の分野においても、退院後の予後や在宅生活の継続を考慮した場合に欠かすことのできない学問であるといえよう。実際に看護分野では、回復期病棟においてADL能力を評価することも求められている。そこで本講義では、ADLの概念、範囲、評価の方法、ADLを支援する自助具や機器について詳述する。

到達目標

日常生活活動の定義と諸動作の仕組みをよく理解する。日常生活活動を障害する因子の階層性を把握し、看護計画等の評価とケアに反映できるように努める。

授業計画表

授業計画

- 第1回 日常生活活動の概念
- 第2回 日常生活活動と国際分類
- 第3回 基本動作
- 第4回 身のまわり動作
- 第5回 コミュニケーション
- 第6回 生活関連動作
- 第7回 ADL評価 (1)
- 第8回 ADL評価 (2)
- 第9回 自助具とADL支援機器 (1)
- 第10回 自助具とADL支援機器 (2)
- 第11回 疾患別ADL (1)
- 第12回 疾患別ADL (2)
- 第13回 疾患別ADL (3)
- 第14回 疾患別ADL (4)
- 第15回 総括

成績の評価

試験60%、小テスト20%、平常点20%

自己学習

毎回の講義で行う小テストを必ずファイリングし、復習を行うこと。

履修上の注意

大学での授業進行をペースメーカーとして、自発的かつ積極的に予習と復習を行い毎回の授業に臨むことが学習の理解を深めるために必要である。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

参考文献

「臨床理学療法評価法」(エンタプライズ) 鈴木俊明 監修
「理学療法学テキストⅣ 日常生活活動(ADL) 第2版」(神陵文庫) 千住秀明 監修

オフィスアワー

火曜日 12時～13時

研究室

診療・研究棟3階 305研究室

授業用E-mail

yoneda@kansai.ac.jp

講義コード	2N317011
講義名	保健・医療・福祉制度論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2305
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員

平尾 恭子・室谷 牧子

講義の目的

看護職が質の高い看護を提供するには、看護に関する専門知識と技術を身につけるとともに、我が国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する法令を理解しなければならない。社会において看護職がどのような役割を持っているかを正しく認識し、自分の責任を果たすために法令を知識として学ぶだけでなく、日常での生活やニュースなどに関連づけて考察できることを講義の目的とする。

到達目標

1. 人々の生活がさまざまな制度や法律で支えられていることを説明することができる。
2. 看護専門職の法的な役割や責務について述べるができる。
3. 我が国の保健・医療・福祉に関する主要な制度について述べるができる。
4. 身近なニュースに関心を持ち、保健医療福祉制度と関連づけて考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス及び法の概要
2. 看護職に関する法
3. 保健医療福祉の中で看護専門職の役割
4. 医療法の概要
5. 医療関係の資格に関する法
6. 医薬品等に関する法
7. 労働に関する法
8. 社会保障と生活保護法
9. 高齢者福祉政策と介護保険制度
10. 介護保険法とその概要
11. 障害者に関する法
12. 地域保健法及び健康増進法
13. 感染症に関する法

14. 母子保健に関する法

15. 精神保健に関する法

成績の評価

期末試験90%、平常点10%（授業で記載するミニペーパーを含む）で評価する。

自己学習

授業計画に沿って事前にテキストを熟読して予習する。

履修上の注意

1. この科目で学修する制度や法は、人々の生活に密接にかかわる内容のため、看護師国家試験によく出題される内容である。
2. 制度や法は、その時代背景や必要性によって改正などがされている。したがって、法が制定や改正される背景を十分理解することが重要である。

テキスト

「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度」（医学書院）

参考文献

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

各教員とも昼休みに対応可能ですが、実習等で学外に出ている場合もありますので、事前に連絡をお願いします。

研究室

5号館7階C707（辻）研究室・C711研究室（平尾）C709研究室（室谷）

授業用E-mail

s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	2N320011
講義名	保健統計学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2307
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 宮井 信行	指定なし

担当教員

宮井信行

講義の目的

保健医療分野では、対象者から得られる様々な情報を収集してそれを処理している。近年、この情報処理にコンピュータ技術が大きく関わってきており、コンピュータによる情報処理手法の理解と習得が不可欠となってきた。本講義では、情報処理に必要な統計学の知識や技術を習得する。また、各種の保健統計のうち、人口動態統計および疾病統計から得られる指標をもとに、出生や死亡の動向、健康水準の現状などについて解説する。

到達目標

保健統計と統計学の基礎を理解し、簡単な統計分析が行え、研究に活用できるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.母集団と標本
- 2.データの種類と尺度)
- 3.基本的な統計量（代表値と散布度)
- 4.母集団統計値の推定(1)（母数と統計量、点推定と区間推定)
- 5.母集団統計値の推定(2)（平均と割合の推定)
- 6.仮説検定
- 7.平均の差の検定
- 8.割合の差の検定
- 9.差の検定方法の種類と選択
- 10.相関と回帰
- 11.人口静態統計（国勢調査)
- 12.人口動態統計(1)（出生、死亡、生命表)
- 13.人口動態統計(2)（死因)
- 14.演習
- 15.まとめ

成績の評価

筆記試験(80点)、受講態度(10%)、小テストまたは小レポート(10%)で総合的に評価する。

自己学習

前回の授業の復習をしっかりと行う。

履修上の注意

授業は講義を中心とするが、できる限り学生との対話形式で進めて行くので、積極的に課題に取り組むように期待しています。

テキスト

テキストは使用しません。授業時に資料を配付します。

参考文献

「基本からわかる看護統計学入門 第2版」(医師薬出版株式会社) 大木秀一 著

「やさしい保健統計学 第4版」(南江堂) 懸俊彦 著

「ナースのための統計学 第2版」(医学書院) 高木寛文 著

講義コード	2N369011
講義名	老年看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3412
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子・原 希代・川添 英利子

講義の目的

地域や施設で生活する高齢者とのふれあいを通して、加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、よりよい生活を実現するための看護を考えることができる。

到達目標

1. 多様な人生経験を積んだ高齢者の人格と生命を尊重できる。
2. 加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が理解できる。
3. 加齢や疾病が生活に及ぼす影響が理解できる。
4. 高齢者にとってよりよい生活とは何かを考える。
5. 高齢者に必要な日常生活の援助を経験する。

授業計画表

授業計画

1. 学内オリエンテーション
2. 特養または老健施設での実習（オリエンテーション）
3. 特養または老健施設での実習（受け持ち利用者の看護）
4. 特養または老健施設での実習（受け持ち利用者の看護）
5. 特養または老健施設での実習（受け持ち利用者の看護）
6. 地域高齢者との交流（地域シニアクラブ行事への参加）
7. 「和の会」のプレゼンテーション
8. 「和の会」の予行演習（熊取町煉瓦館で実施）
9. 「和の会」（熊取町煉瓦館で実施）
10. まとめ

成績の評価

実習評価表（オリエンテーションで配布）にて評価する。

自己学習

関連する授業の復習を行い、臨地実習に臨む。

臨地実習時は、自己学習ノートの提出を求めることもある。

履修上の注意

- * 実習要項を精読し（オリエンテーションで配布）臨む。
- * 特養または老健施設での実習では受け持ち利用者の看護を中心に行う（看護過程の展開を行う）。
- * 実習日は原則として毎週火曜日であるが、詳細は第1回オリエンテーションで発表する。
- * 「和の会」の準備には、実習時間以外を用いる場合がある。
- * すべてグループ（オリエンテーションで発表）で行動する。

テキスト

関係する講義等で使用したテキストを参照する。

参考文献

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：昼休み メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室（岩井） C710号室（原） C721共同研究室（川添）

講義コード	2N373011
講義名	老年期の健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3401
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子

講義の目的

超高齢社会の日本において、老年期をいかに過ごすかということは、個人にとっても社会にとっても重要な問題となってきた。単に高齢者を理解するにとどまらず、老年期というライフスタイルで捉えていく。

そこで、まず高齢者を理解し、さらに高齢者が直面する様々な問題を分析し、高齢者がよりよく生活するために必要なことを医療・保健・福祉対策も含めて考え、老年看護学が担う役割を理解する。

到達目標

1. 日本の高齢者の現状と社会問題、支える制度を理解する。
2. 高齢者を理解し、加齢による生活への影響を理解する。
3. 老年看護学が担う役割を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 老年看護学の必要性（高齢社会の現状を含む）
2. 老年期のライフスタイル（発達課題・生活）
3. 加齢が生活に及ぼす影響
4. 高齢者のリスクマネジメント
5. 老年看護学の視点と倫理
6. 介護保険と医療保険
7. 高齢者のQOLとは（グリーンケア・レスパイトケア含む）
8. Activityの必要性とその方法（補講時外部講師）

成績の評価

定期試験により評価

自己学習

看護にいかす疾病論Ⅴ、今まで学んだことを復習し講義にのぞむ。

自らのノートをしっかり作り上げていくこと。

履修上の注意

*その日の学習目標を提示するので、達成できない時や、疑問がある時は、質問を行い解決していく。

*出席カードの裏に質問を記入してもよい。

*欠席をした場合は、次の講義までに必ず自ら配布資料を研究室まで取りに来ること。

*第8回目は外部講師による講義で補講期間に行う。試験範囲には入れないが、老年看護学実習Ⅰにおける「和の会」に必要となるので欠席しないよう注意する。

テキスト

ナーシンググラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害（メディカ出版）

参考文献

高齢社会白書

厚生労働省ホームページの統計資料などを必ず確認する。

その他、授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室

講義コード	2N405011
講義名	健康教育論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3410
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

高橋美佐、平尾恭子、室谷牧子、西井崇之

講義の目的

健康教育の理念と目的、対象者理解、行動変容とそれを支援するための基礎的知識および技術を体験的に理解する。

到達目標

対象者が健康問題を解決したり、生活習慣病を予防したりするにあたり、必要な知識の習得と意思決定ができるように、また自ら積極的に取り組む実行力を身に付けることができるよう、看護職として必要な基礎的知識と技術について体験的に理解する。

近年、生活習慣病予防につながる健康教育は、大学時代から取り組むのが効果的という動きがある。学生同士が、お互いに知識獲得、行動変容を支援するコミュニケーションを練習することにより、現場で使える知識と技術の土台を築くことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 健康教育の考え方と理論：対人支援のポイントなど
2. 対象者と信頼関係を築く：対人ストレスを減らし、信頼関係をつくるコツ
3. 対象者のモチベーションを上げる：承認する・価値を知る
4. ゴール設定：対象者の人生目標を明確にする
5. 健康目標の設定：対象者の人生目標のために、備えておきたい生活習慣は？
6. レッツ・コーチング：対象者を支援してみよう
7. 振り返りコーチング：まとめとこれからの行動計画

成績の評価

毎回の授業の成果物40%・グループワークの取り組み30%、レポート30%

自己学習

掲示や授業内に指定する。

履修上の注意

1. 参加型の講義です。主体的に学習に取り組んでください。特に指示するとき以外は携帯・スマホの電源は切ってください。
2. 看護職にコミュニケーションによる対象支援は不可欠です。コミュニケーションに「正解」や「間違い」はありません。自分自身と対象者に正直に向き合い、気づきを重ねることが学びにつながります。人と話をするのが好きな人も苦手な人も、共に安心して、好奇心をもって出席してください。

テキスト

適宜プリント配布

参考文献

- 「公衆衛生看護学.JP」(インターメディカル) 荒賀直子他著
「もしもウサギにコーチがいたら」(大和書房) 伊藤守著
「スタンフォードの自分を変える教室」(大和書房) ケリー・マクゴニガル著

研究室

平尾：5号館7階C711研究室、室谷：5号館7階C709研究室、西井：5号館7階C721研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N454011
講義名	カウンセリング論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2303
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員

狩野 真理

講義の目的

臨床で心理学的な問題や症状を抱えた人々に対して、セラピストが行う専門的な心理カウンセリングの基礎的理解を行う。

「カウンセリング」については、単に「受容的に話を聴くこと」程度の意味で使われることも稀ではないが、この授業では、カウンセリングについての総論と、具体的な技法について、基本となる考え方を講義する。さらに、ロールプレイを通して、多忙な看護業務の中で用いることができる短時間で効果的なカウンセリング技術を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 「カウンセリング」について正しく理解し、心理学的問題を持っている人々への理解を深める。
2. 様々な技法を理解し、ロールプレイによって実践できる。
3. 看護場面を想定し、ロールプレイによる実践を繰り返すことによって、看護の場面にカウンセリングの技術を効果的に用いる事が出来る。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 基本的な関わり方：ジョイニング
4. 傾聴技法：受容と共感
5. 看護場面を想定
6. コンプリメント・リフレーミング
7. 解決志向アプローチ
8. 患者の状況別心理を理解する (1)
9. 患者の状況別心理を理解する (2)
10. 患者の状況別心理を理解する (3)
11. 対応に困る看護場面を想定 (1)

- 12.アサーショントレーニング
- 13.患者家族と対応する場面を想定（1）
- 14.患者家族と対応する場面を想定（2）
- 15.学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート60%・授業内小レポート30%・平常点10%

自己学習

講義・演習内容について日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

テーマに沿った内容のロールプレイとディスカッションを行います。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけてください。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考文献

- 「セラピスト入門 システムズアプローチへの招待」（日本評論社） 東豊
- 「ブリーフセラピーで切り抜ける 対人トラブル 即解決力」（日総研） 生田倫子
- 「ナースだからできる5分間カウンセリング」（医学書院） 小島通代・吉本武史編
- 「ナースが知りたい！患者さんの心理学」（西東社）大木桃代編
- 「ナースのためのアサーション」（金子書房）平木典子（編）

講義コード	2N455011
講義名	ボランティア論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4401
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員

小西治子 室谷牧子

講義の目的

ボランティアは特別な活動ではなく、私たちの生活を支える重要な活動である。そこで本科目では、ボランティアの理念および沿革、ボランティア推進施策の現状を学ぶとともに、体験を通してボランティア活動の理念を知り、ボランティアの現状と課題、今後の展開の可能性等について考える。

さらに、ボランティアの地域における価値とコーディネーターの役割を理解し、住民の主体的な社会参加を促進する意義について考える。

到達目標

地域社会におけるボランティアの役割とボランティアを支援する仕組みを理解し、自らの目標を持ち、ボランティアを継続する力をつける。

授業計画表

授業計画

- 1回 ボランティアを知る
- 2回 ボランティアの性格を学ぶ
- 3回 ボランティアの社会的変化、活動の準備を学ぶ
- 4回 児童デイのボランティア体験
- 5回 児童デイのボランティア体験
- 6回 地域のボランティア活動①「社会に貢献する」ワークショップ
- 7回 地域のボランティア活動②身近なボランティア活動とボランティアのコーディネート
- 8回 地域のボランティア活動③ボランティア活動の実際 特別講義
- 9回 地域のボランティア活動④地域のボランティア活動計画の立案
- 10回 地域のボランティア活動⑤地域のボランティア活動体験
- 11回 地域のボランティア活動⑥地域のボランティア活動体験
- 12回 演習を経てボランティアについて考える
- 13回 ボランティアの必要性を考える
- 14回 障がいのある人の生活とボランティアについて考える

15回 体験報告会・まとめ

成績の評価

小テスト・レポート50%、演習40%、平常点10%により総合的に評価する

自己学習

日常からボランティアに関するニュースや情報を収集し、自分なりに解釈してください。授業で学んだこと、演習での体験を自分なりに社会人としてどう生かすか、を常に考えるよう、日々学習してください。

履修上の注意

主体的に学習し、授業に参加すること。

私語厳禁、携帯電話は電源をOFFまたはマナーモードにする。

この科目では、学内の講義だけではなく、実際にボランティア活動を体験します。1回は障がい児・者に関わるボランティア体験で、1回は地域生活で住民が活動しているボランティア体験です。時期は5月から6月の土曜日か日曜日等で1回³時間程度、原則教員が提示したリストの中から学生が興味のあるものを選択し、2回のボランティアを体験することが必要となります。

テキスト

プリント配布

参考文献

「社会に貢献する」日本ファンドレイジング協会

オフィスアワー

昼休み

研究室

5号館7階C709研究室(室谷)

授業用E-mail

muroya@kansai.ac.jp

講義コード	2N456011
講義名	ライフサイクルと保健活動
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3411
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾 恭子、室谷牧子、西井崇之

講義の目的

公衆衛生看護の活動方法および技術について学習するとともに、母子、成人、高齢者の健康課題と保健施策について学び、地域における保健活動の実際を理解する。さらに、地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

到達目標

1. 母子、成人、高齢者の健康課題を理解する。
2. 母子、成人、高齢者の健康と生活に関わる法令、制度について知る。
3. 母子、成人、高齢者に対する地域保健活動の実際を理解する。
4. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、母子保健の動向
2. 乳幼児の発達、子育て支援
3. 妊娠期の健康課題と保健活動
4. 乳児期の健康課題と保健活動
5. 幼児期の健康課題と保健活動①
6. 幼児期の健康課題と保健活動②
7. 児童虐待と保健活動
8. 地域の子育て支援の実際
9. 成人保健の動向と保健師の役割
10. 生活習慣病予防と保健活動
11. 健康診査と支援の展開
12. 高齢社会の現状と健康課題
13. 地域で暮らす高齢者と家族への課題別アプローチ
14. 地域包括支援センターの役割と地域包括ケアシステムの構築
15. 歯科保健の動向と生涯にわたる歯科保健活動

成績の評価

試験80%、レポート10%、平常点10%にて評価する。

自己学習

既習科目について復習し、下記内容の理解を深めておくこと。

1. 公衆衛生の理念、公衆衛生看護の活動方法および技術
2. 母子、成人、高齢者のライフサイクルの特徴と発達課題
3. 母子、成人、高齢者に関連する主要な疾患
4. 母子、成人、高齢者に関わる法令、制度

その他

講義で配布したプリントは必ず次回までに精読しておく。

履修上の注意

1. 学生が住んでいる地域に関心を持ち、自分自身また家族の生活と関連させて公衆衛生看護を捉える。
2. 第8回「地域の子育て支援の実際」では地域で実施されている「子育てひろば事業」等の見学を行う。
3. 受け身にならず主体的に学習し、学生自身の考えを深める。
4. 携帯電話、飲食物は鞆の中にしまい、机の上に置かない。
5. 私語厳禁とする。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学jp」(インターメディカル)荒賀直子他編
2. 「国民衛生の動向2016/2017」(厚生統計協会)
3. プリント配布

参考文献

適宜紹介する

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

5号館7階C711研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N457011
講義名	在宅看護方法論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3406
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榊田 聖子	指定なし

担当教員

前久保 恵・榊田 聖子・鹿島 英子

講義の目的

在宅療養者と家族の健康問題に関連した生活の特徴を理解し、彼らの安心・安全・安楽な生活を維持するために、基本的な生活行動と自立を支える関わり方に必要な知識と技術を習得する。

到達目標

- 1 在宅療養者の日常生活動作と各自の生活観との関連を理解し、個人に応じた支援の必要性を考えることができる。
- 2 日常生活を遂行する上で問題になる状態を理解し、その状態を解決または維持する支援方法を学ぶ。
- 3 社会資源の活用や関係者の連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる。

授業計画表

授業計画

- 1 在宅療養生活継続のためのセルフケアの支援・服薬管理
- 2 日常生活を支える援助 食事・栄養の援助①
- 3 食事・栄養の援助②
- 4 食事・栄養の援助③
- 5 食事・栄養の援助④
- 6 排泄の援助①
- 7 排泄の援助②
- 8 排泄の援助③
- 9 清潔の援助
- 10 感染予防
- 11 移動・活動の援助 (1)
- 12 移動・活動の援助 (2)
- 13 移動・活動の援助 (3)
- 14 事例を通して日常生活援助を考える
- 15 事例を通して日常生活援助を考える

成績の評価

筆記試験 90%・平常点 10%

自己学習

基礎看護学技術論、日常生活活動等についての復習(ADL・IADL など)

履修上の注意

快適な生活とは何か、自分や家族との暮らしを考えながら履修すること。

テキスト

「新体系 看護学全集 在宅看護論」 メヂカルフレンド社 河野あゆみ編

参考文献

「在宅看護技術」第3版 メヂカルフレンド社 正野逸子他編

「リハビリテーション看護論」第2版 ニューヴェルヒロカワ 中西純子・石川ふみよ編

「演習・実習に役立つ基礎看護技術」第4版 ニューヴェルヒロカワ 三上れつ他編

「健康危機状況/セルフケアの再獲得」2015年版 メディカ出版 安酸史子他編

研究室

5号館7階C706研究室

講義コード	2N458011
講義名	在宅療養と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3405
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榊田 聖子	指定なし
教員	前久保 恵	指定なし

担当教員

前久保 恵

講義の目的

在宅看護活動は、在宅療養を選択した人々がその人らしく生活できるように、支援する在宅ケアの一端を担う。

この科目をとおして、在宅看護が担う役割を理解し、対象者(在宅療養者)とその家族の生活継続のためには、保健・医療・福祉の法制度や地域の社会資源の活用、在宅ケアチームメンバー間の連携・協働の仕組みが必要なことを理解する。

到達目標

- 1 在宅看護の特徴について理解できる
- 2 対象者と家族の健康問題および生活について理解できる
- 3 対象者と家族を支える訪問看護の特性について理解できる
- 4 社会保障制度および地域の社会資源の活用について理解できる
- 5 保健・医療・福祉や地域との連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる

授業計画表

授業計画

- 1 ガイダンス：①在宅療養が必要とされる背景と対象者
②日常生活の維持と自立支援
- 2 在宅における継続看護：退院支援システムと在宅療養
- 3 家族看護者の支援
- 4 在宅ケアにおける関連機関・関係職種との連携・協働
- 5 訪問看護の概要

6 訪問看護の特徴

7 訪問看護の実際

8 在宅ケアを支える制度と社会資源

成績の評価

筆記試験、課題レポート、平常点

自己学習

保健・医療・介護・福祉の現状を知るために、ニュースに関心をもち、地域の市報(区民便りなど)にも目を通すこと。

履修上の注意

自分の日常生活を継続するために、必要な条件は何かを振り返り、在宅ではどのような看護が必要かを考える。

テキスト

「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社 河野あゆみ編 2016年版

参考文献

「在宅看護論 実践をことばに」第6版 ニューヴェルヒロカワ 杉本正子、眞船拓子編

雑誌 ①「訪問看護と介護」②「コミュニティケア」

講義コード	2N459011
講義名	老年看護方法論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3403
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子 原 希代 川添 英利子

講義の目的

高齢者への生活支援の必要性と方法を理解し、実践することができる。

到達目標

1. 高齢者と円滑にコミュニケーションがとれる。
2. 移動介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
3. 更衣の必要性とその方法を理解し実践できる。
4. 排泄の必要性とその方法を理解し実践できる。
5. 食事介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
6. 口腔ケアの必要性とその方法を理解し実践できる。

授業計画表

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション (SP*を用いた演習)
2. 高齢者とのコミュニケーション (SP*を用いた演習)
3. 高齢者とのコミュニケーション振り返り
4. 高齢者の自然な動作を考える (臥位⇔座位、座位⇔立位)
5. 片麻痺患者の車いす移乗を科学する
 - ① ベッドから車椅子への移乗
6. 片麻痺患者の車いす移乗を科学する
 - ② 車椅子からトイレへの移乗
7. ベッド上での自然な動作を考える
8. 高齢者の更衣を考える
9. 高齢者のおむつからの尿漏れを科学する
10. QOLを高めるおむつの使用を考える
 - ① おむつによる生活への影響
11. QOLを高めるおむつの使用を考える
 - ② おむつの当て方の工夫

12. 美味しく食べるための口腔ケア
13. QOLを高める食事の方法を考える
①安全な食事のための姿勢
14. QOLを高める食事の方法を考える
②五感に働きかける食事介助の工夫
15. 高齢者の死について考える
*SP=Simulated Patient(模擬患者)

成績の評価

レポート

自己学習

必ずシラバスで学習する内容を確認し、必要な知識は自己学習して臨む。

履修上の注意

- *主体的に学習する。
- *グループワークを基本とする。
- *老年看護方法論Ⅰと連動させる。
- *復習する習慣をつける。
- *わからないことは必ず質問等で解決する。

テキスト

ナーシング・グラフィカ
老年看護学 (1) : 高齢者の健康と障害 (メディカ出版)
老年看護学 (2) : 高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考文献

演習の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室 (岩井) C710号室 (原) C721共同研究室 (川添)

講義コード	2N460011
講義名	老年看護方法論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N2-3402
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子 原 希代 川添 英利子

講義の目的

老年期の健康障害の特徴と生活への影響を理解し、QOLの向上を目指した看護を導き出すための知識を修得する。

到達目標

1. ICFの概念を理解する。
2. 高齢者とのコミュニケーションのための知識を修得する。
3. 老年期の健康障害が生活に及ぼす影響とその看護を見出すことができる。
4. 退院支援の必要性とその方法を理解することができる。
5. 看取りの看護を理解することができる。

授業計画表

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（模擬患者を用いた演習の説明）
2. ICFの考え方とその使い方
3. 活動と休息を支える看護（感覚器の老化と生活への影響）
4. 活動と休息を支える看護（睡眠の看護）
5. 歩行・移動を支える看護（骨折の予防）
6. 歩行・移動を支える看護（廃用症候群の予防）
7. 清潔を保つための看護（更衣・感染予防を含む）
8. 排泄を支える看護（高齢者の排泄の特徴）
9. 排泄を支える看護（失禁へのアプローチ）
10. 食生活を支える看護（摂食と誤嚥予防）
11. 食生活を支える看護（高齢者の食生活、低栄養予防）
12. 事故予防 急変時の対応
13. 精神障害のある高齢者の看護
14. 退院支援
15. 看取りの看護

成績の評価

定期試験70%、小テスト30%

自己学習

「老年期の健康と看護」「看護にいかす疾病論Ⅴ」で学んだことを復習しておく。
必ずシラバスで学習する内容を確認し、疾病や症状など必要な知識は自己学習して臨む。

履修上の注意

- *グループワークを行うこともある。
- *老年看護方法論Ⅱと連動させていく。
- *復習する習慣をつける。
- *わからないことは必ず質問等で解決する。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学（1）：高齢者の健康と障害（メディカ出版）

老年看護学（2）：高齢者看護の実践（メディカ出版）

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室（岩井） C710号室（原） C721共同研究室（川添）

講義コード	2N461011
講義名	成人看護方法論Ⅱ（急性期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3303
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井村 弥生	指定なし

担当教員

井村弥生 児嶋章仁 阿部香織

講義の目的

健康状態が急激に変化し、生命危機にある対象者とその家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解する。またその特徴を踏まえた、看護を提供するための基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 急性期から回復期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。
2. 周手術期の各期の特徴と具体的な看護を述べるができる。
3. 看護過程を通じて対象に応じた看護実践について考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 手術を受ける患者の看護、術前の不安、ストレスについて
2. 術前準備・不安のアセスメントと援助・術前評価
3. 麻酔と手術体位とその影響、手術方法、術中安全
4. 術後合併症のリスクマネージメント
5. 術後合併症と管理、術後疼痛
6. 早期回復促進への援助
7. 術後合併症の予防、早期離床
8. 術後の機能障害と生活制限への援助
9. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える①
10. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える②
11. 救急医療の現状
12. 心肺蘇生状態の対応、
13. 急性期患者の症状と看護・緊急性と重症度のアセスメント、生命危機と管理
14. 急性期患者の症状と看護・生命危機と管理
15. 危機的状態への精神支援と代理意思決定支援

成績の評価

試験 %、レポート課題等 %、総合的に判断する

自己学習

急性期病態学、および疾患の理解を深めておくように。
急性期にある対象者の看護についてイメージ作りを行ってください

履修上の注意

授業内容に応じて、課題レポートの提出を求める

テキスト

- 1.周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ 2013
- 2.医学書院 臨床外科看護総論
- 3.成人看護学 成人看護技術 南江堂 2013

参考文献

- 1.竹内登美子；講義から実習へ 周手術期看護1・2・3・4・5 編著 医歯薬出版株式会社 2009
- 2.下間正隆；エキスパートナーズ Mook36 まんがで見る術前・術後のケアのポイント、照林社、2010
3. 池西静江, 小山敦子他：アセスメントに使える 疾患と看護の知識, 照林社, 2016.

講義コード	2N462011
講義名	成人看護方法論Ⅰ（慢性期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3302
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北得 美佐子	指定なし

担当教員

北得 美佐子, 野田部 恵

講義の目的

成人期にある人々の特性をふまえて、健康障害が慢性に経過し、生涯にわたり生活をコントロールしていく必要がある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を総合的に理解し、看護ケアに必要な基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標

1. 慢性の健康障害のレベルにある対象及びその家族の、身体的・心理的・社会的特徴及び健康問題を理解する。
2. 慢性の健康障害を持った対象に対応した看護ケアについて理解する。

授業計画表

成人看護方法論Ⅰ（慢性期）

授業計画

1. 慢性期看護の特徴とその看護
2. セルフケア・自己管理支援
3. がんをもつ患者の特徴と看護
4. 社会的支援の獲得への援助
5. 糖尿病をもつ患者の看護
6. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）
7. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）
8. 循環器障害のある患者の看護（心不全）
9. 循環器障害のある患者の看護（心不全）
10. 膠原病・内分泌障害のある患者の看護（SLE）
11. 消化機能障害のある患者の看護（上部消化管疾患）
12. 消化機能障害のある患者の看護（下部消化管疾患）
13. 慢性腎炎・腎不全をもつ患者の看護
14. 消化機能障害のある患者の看護（胆のう炎・膵炎）

15. 消化機能障害のある患者の看護（肝炎・肝硬変・肝癌）

成績の評価

期末時の筆記試験80%、小テスト・課題レポートの提出・平常点20%で総合的に評価を行う。

自己学習

解剖学・生理学、疾病論など、既習の学習内容を基に授業を展開するため、予習・復習などをして授業に臨むこと

履修上の注意

- ・学修の主体者であることを認識して、文献を読み積極的に討議・発言できることを期待する。
- ・授業内容に応じて小テスト、課題に基づくレポート提出を求める。

テキスト

小松浩子他：がん看護学 系統看護学講座 別冊;医学書院
系統別看護学講座①～⑧；医学書院

参考文献

講義の中で随時提示する

オフィスアワー

水曜日 12:00～13:00

その他、事前にメールにて連絡を下されば他の時間でも対応できることがあります。

研究室

5号館7階 C705研究室

授業用E-mail

kitae@kansai.ac.jp

講義コード	2N463011
講義名	小児看護方法論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3206
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美 西田紀子

講義の目的

小児看護の対象は、健康、不健康問わずすべての小児である。子どもが健やかに成長発達を遂げるためには子どもの成長発達段階や発達課題に応じた支援が必要となる。この科目では、子どもの成長発達過程と発達課題に応じた必要支援の内容と方法をその根拠と共に習得する。

到達目標

1. 子どもの権利について説明することができる。
2. 成長発達に応じた生活他の支援を根拠に基づいて述べるすることができる。
3. 成長発達に応じた生活他の支援に関する支援技術を実施することができる。
4. 発達課題をふまえた子どもの自己表現を促す必要性を述べるすることができる。

授業計画表

授業計画

1. 小児看護の対象と小児看護倫理
2. 子どもの権利と小児看護に求められる役割
3. 子どもの成長発達と発達課題
4. 子どもの成長発達とセルフケア①
5. 子どもの成長発達とセルフケア②
6. 子どもの成長発達とセルフケア③
7. 子どもを取り巻く環境と安全対策
8. 成長発達に応じた日常生活支援演習
9. 成長発達に応じた日常生活支援演習
10. 発達段階と遊びの意義
11. 遊びの提供と子育て支援①
12. 遊びの提供と子育て支援②
13. 精神的発達と支援
14. 精神的発達と子どもの自己表現の理解
15. 精神的発達と子どもの自己表現の理解

成績の評価

期末試験(90%) 平常点(10%)

自己学習

決められた事前の課題を済ませて授業に臨む。

履修上の注意

受け身にならず、学習の主体者であることを自覚して受講する。

テキスト

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 医学書院 奈良間 美保他
- ・小児看護実習ガイド 照林社 筒井 真優美監

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	2N464011
講義名	子育て支援論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N2-4403
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

平尾恭子

講義の目的

わが国の子育ての動向および課題を理解するとともに、子どもに関わる上で必要なスキルや地域の子育て支援サービス等について学ぶ。さらに、事例を通して児童虐待および虐待の子どもへの影響を理解し、看護職（保健師・助産師・看護師）の役割について考察する。

到達目標

1. わが国の子育て支援の動向および課題、子育ての理念について理解する。
2. 子どもとの良好な関係を形成し、発達を促すスキルについて理解する。
3. 地域の子育て支援サービスについて理解する。
4. 事例を通して児童虐待および虐待が子どもに与える影響を理解する。
5. 子育て支援における関係機関・職種の連携および看護職（保健師・助産師・看護師）の役割について考察する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、子育ての動向
2. 子育ての理念と子どもに関わるスキル
3. 子どもの貧困
4. しつけと体罰
5. 児童虐待と子どもへの影響
6. 事例を通して児童虐待を考える①
7. 事例を通して児童虐待を考える②

成績の評価

試験40%、レポート40%、授業における成果物20%とする。

自己学習

乳幼児の発育・発達、母子保健について復習しておく。

履修上の注意

1. 日頃より子育てに関するニュースに関心をもち、子育てにおける社会の動向を知る。
2. 受け身にならず主体的に学習し、学生自身の考えを深める。
3. 私語厳禁とする。
4. 携帯電話、飲食物は鞆の中にしまい机上に置かない。

テキスト

プリントを配布する

参考文献

随時、提示する。

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

5号館7階C711研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	2N465011
講義名	基礎看護技術論Ⅲ（診療の補助技術）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N2-3107
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松下 直子	指定なし

担当教員

松下直子・山根木貴美代・井出窪澄子

講義の目的

看護師の役割の一つである診療の補助技術を学修する。この科目では、治療や検査を必要としている対象者の心理を理解し、対象者が安全で安楽に治療や検査を受けることができるための基本的知識と看護技術を修得することが目的である。

到達目標

1. 治療や検査を必要としている対象者が安全で安楽に最大の治療効果が得られるための知識と看護技術を修得する。
2. 演習を通して看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養う。

授業計画表

授業計画

1. 無菌操作に関連した知識を理解し、基本的な無菌操作の技術が実施できる。
2. 呼吸に関連した知識を理解し、呼吸・循環を整える基本的技術が実施できる。
3. 検体検査・生体検査の基礎的知識が理解できる。
4. 演習を通して看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養う。

成績の評価

筆記試験80%、小テスト・演習記録および平常点20%で評価する。

自己学習

テキストの該当する箇所を読み、学修内容を把握しておく。

履修上の注意

1. 方法や手順にだけ注目するのではなく、それぞれの技術の原理・原則、根拠を理解する。
2. 演習には演習記録の課題がある。
3. 演習は臨床場面を想定して行うので、実習室では看護者としての心構え（身だしなみ）で望む。

テキスト

1. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)
3. 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 (医学書院)
(1.2.3ともに1年次購入したもの)

参考文献

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日 12:00~13:00

研究室

5号館7階C716

講義コード	2N466011
講義名	精神看護方法論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N2-3308
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

和田幸子・川端明雄

講義の目的

心を病む人々がリカバリーできるような看護に向けて、精神看護の基盤となる考え方、精神症状とその障害、薬物療法・精神療法・精神科リハビリテーション、リスクマネジメントなどを理解する。心を病む人々のセルフケアを支援するための看護と、患者・看護師関係の発展過程や治療的かかわりを省察する意義と方法を理解する。

到達目標

1. 精神看護に役立つ理論、モデルの知識を得る。
2. 援助過程を省察するための意義と方法を理解する。
3. 心を病む人々のセルフケアを高める各種治療、看護を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 精神看護の基盤となる考え方
リカバリー・ストレングス・エンパワメント・危機介入
2. 援助関係の構築
信頼関係・ペプロー・プロセスレコードの活用
3. 精神症状の捉え方・精神症状の理解
ストレス-脆弱性モデル、レジリアンスモデル、生物心理社会モデル
4. 精神症状とその障害① 意識とその障害、知能とその障害、記憶とその障害
5. 精神症状とその障害② 知覚とその障害、思考とその障害、感情とその障害、自我とその障害
6. 精神看護における観察・コミュニケーション、アセスメント
7. ロールプレイに基づく検討（拒絶場面）
8. セルフケアへの援助（日常生活支援）①
9. セルフケアへの援助（日常生活支援）②
10. 薬物療法の意味と看護の役割
11. 各種薬物の作用機序と副作用

12. 精神療法（個人と集団）、認知行動療法、SST
13. 精神障害をもつ人のリスクマネジメント(精神科救急含む)
14. 精神科病院での入院環境（閉鎖病棟、開放病棟）
15. 社会参加への働きかけ、精神科リハビリテーション

成績の評価

試験80%、平常点20%にて評価する。

自己学習

指定されたテキストで授業進度に合わせて単元の予習をしておく。

履修上の注意

日頃の人間関係で生じる感情に気づくことも大切。自己のコミュニケーションを客観的に振り返ること、授業中は質問や意見を述べるなどの積極的な参加姿勢で臨むことを期待する。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

参考文献

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

研究室に在室している場合にはできるだけ対応します。

研究室

5号館7階C702研究室（和田）5号館7階C721（川端）

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	2N467011
講義名	食生活と健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N2-2302
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

担当教員

黒木 知美

講義の目的

看護の対象となるあらゆる人々の健康保持・増進・回復のために健全な食生活を営むことができるように援助するための専門的な知識と実践力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 栄養と栄養素について
3. 日本人の食事摂取基準について
4. 臨床栄養 糖尿病
5. 臨床栄養 糖尿病
6. 臨床栄養 糖尿病
7. 自身の食生活の分析・事例紹介
8. 臨床栄養 高血圧
9. 臨床栄養 脂質異常症
10. 臨床栄養 腎疾患
11. 臨床栄養 腎疾患 (人工透析)
12. NSTについて
13. ライフステージ別食生活
子どもの「食べる力」をはぐくむことへの支援・食育について
14. ライフステージ別食生活
高齢者の「食生活を支えること」への支援・患者の自己実現を援助
15. まとめ

成績の評価

試験 (60%) 平常点 (10%) レポート (30%)

履修上の注意

授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめて、理解を深めておくこと

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する

参考文献

「5訂 日本食品標準成分表」

「第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表」

講義コード	2N468011
講義名	看護とくすり
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2207
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 町谷 安紀	指定なし

担当教員

町谷 安紀

講義の目的

看護師が日常業務の中で薬を取り扱う場面は非常に多い。また医療事故の多くは、薬剤が関連している。

講義では、薬について基礎教育の段階でしっかりと学び、将来の看護の質の向上及び薬剤についての知識の習得を目的とする。

到達目標

1. 薬の取り扱いについて理解できる。
2. 薬の薬物動態について理解できる。
3. 疾患と薬物治療について関連付け、薬の理解と適切な取り扱いができる。
4. 看護における薬物治療の流れを理解し、治療経過の評価及び副作用を把握し、アセスメントできる。

授業計画表

授業計画

〈薬理学総論〉

1. 第1章 薬理学を学ぶにあたって 第2章 薬理学の基礎知識（前編）
2. 第2章 薬理学の基礎知識（中編）
3. 第2章 薬理学の基礎知識（後編）

〈薬理学各論〉

4. 第5章 末梢での神経活動に作用する薬物
5. 第6章 中枢神経系に作用する薬物（前編）
6. 第6章 中枢神経系に作用する薬物（後編）
7. 第7章 心臓・血管系に作用する薬物（前編）
8. 第7章 心臓・血管系に作用する薬物（後編）
9. 第4章 抗アレルギー薬・抗炎症薬
10. 第8章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（前編）
11. 第8章 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（後編） 第9章 物質代謝に作用する

薬物

- 12. 第2章 抗がん薬 第3章 免疫治療薬
- 13. 第10章 皮膚科用薬・眼科用薬 第11章 救急の際に使用される薬物
- 14. 第1章 抗感染症薬（前編）
- 15. 第1章 抗感染症薬（後編） 第13章 消毒薬

成績の評価

試験70%・毎回講義前に実施する小テスト30%

（追試験・再試験に関しては、小テストの点数を考慮せず、試験100%とする。）

自己学習

生体機能や病態の説明を行い、薬理の内容を説明するが、生理や病態生理の内容をしっかりと予習すること。

履修上の注意

薬理学各論はテキスト通りに進めると理解し難い為、順番を変更して講義を行う。

講義内容に関しては、臨床に関わり、看護師としての知識として非常に重要な内容である。毎回（初回を除く）講義前に前回の内容の小テストを行うので、復習をしっかりと行うこと。

看護師国家試験に出題されている内容についても紹介を行う。

テキスト

「系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③」

（医学書院）吉岡 充弘他著

「はじめる！つかえる！看護のための薬理学」

（南山堂）時政 孝行著

講義コード	2N469011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅴ（老年）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2206
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子・畑村 育次・紀平 為子

講義の目的

高齢化率25%超の我が国において、高齢者の加齢による変化や疾患を理解することは不可欠である。そこで加齢による心身の変化、高齢者に特徴的な病態や疾患を理解する。

到達目標

1. 加齢に伴う身体的・精神的変化を説明できる。
2. 高齢者の疾患について、病態・診断・治療が理解できる。
3. 認知症について説明できる。
4. 認知症が生活に及ぼす影響を説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 加齢・老化とは（高齢者の特徴等を含む）
2. 心・血管系と加齢及び疾患
3. 腎・泌尿器と加齢及び疾患
4. 呼吸器と加齢及び疾患
5. 骨・筋肉（運動器）と加齢及び疾患
6. 消化器と加齢及び疾患
7. 1～6までの模擬試験
8. パーキンソン病
9. 脳梗塞
10. せん妄
11. 認知症の病態・要因・評価法
12. 認知症の中核症状とBPSD
13. 認知症が生活に及ぼす影響
14. 事例で学ぶ認知症（コミュニケーション）
15. 事例で学ぶ認知症（BPSD）

成績の評価

定期試験により評価する。

自己学習

復習を必ずすること。
別途指示する場合もある。

履修上の注意

講義内で資料等を配布するが、欠席した場合は、次の講義までに各自担当教員まで取りに行く。

テキスト

老年看護 病態・疾患論 (医学書院)
ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2)：高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考文献

講義内で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：昼休み メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701研究室 (岩井)
診療・研究棟4階402研究室 (畑村)
診療・研究棟4階408研究室 (紀平)

講義コード	2N470011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅳ（母性・小児）①
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2205
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 矢本 希夫	指定なし

担当教員

矢本 希夫

講義の目的

本科目では、先ず女性の生殖機能の基本的な概念、すなわち排卵や月経がどのようにして起こるのか、卵巣ホルモンの女性の心身に及ぼす影響などについての理解を深めるとともに、代表的な婦人科疾患や正常妊娠・分娩の経過とその異常などの基本的知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

看護師、保健師、助産師として、女性の生殖機能や代表的な疾患等を理解することで、女性の患者様に対して適切に対応できることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 女性生殖器の局所解剖と生理
排卵と卵巣ホルモン、子宮内膜の周期性と月経
2. 月経異常の診断と治療；
無月経、無排卵症、月経困難症、月経前緊張症、更年期障害
3. 骨盤内の炎症および性感染症
4. 代表的な婦人科良性疾患；子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍
5. 代表的な婦人科悪性疾患；子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん
6. 不妊症と避妊について
7. 正常妊娠と正常分娩・産褥の経過
8. 異常妊娠と異常分娩・産褥の概論

成績の評価

筆記試験および平常点。

自己学習

配られた資料を十分に復習すること。

履修上の注意

学期末筆記試験と出席で総合評価する。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

「産婦人科学 MINOR TEXTBOOK」 (金芳堂)
「産科学MINOR TEXTBOOK」 (金芳堂) 杉山陽
「プリンシプル産科婦人科学」 (メジカルビュー社)
坂元正一他
「最新産科学正常編および異常編」 (文光堂) 荒木 勤など。

講義コード	2N470012
講義名	看護にいかず疾病論Ⅳ（母性・小児）②
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2205
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 原田 智	指定なし

担当教員

原田 智・宮下 律子・中西 直之・木岡 直美

講義の目的

小児の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、小児特徴的な疾患について臓器別に病態、治療を学習する。

到達目標

- 1.成長と発達を理解する。
- 2.小児の特徴的な疾患について病態を説明できる。
- 3.疾病の予防、治療、生活指導を説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 9/13 神経疾患（木岡）
2. 9/20 循環器・腎疾患（浜）
3. 9/27 感染症・呼吸器疾患（中西）
4. 10/4 消化器（中西）
5. 10/11 成長と発達、新生児、先天異常（原田）
6. 10/18 代謝性・内分泌疾患（宮下）
7. 10/25 免疫・アレルギー性疾患（原田）
8. 11/1 悪性新生物、血液・造血器疾患（宮下）

成績の評価

筆記試験の成績を重視する。但し、レポート提出等を含め総合的に評価する。

自己学習

講義前にテキストを学習しておくこと。

履修上の注意

講義では、臨床状況を設定した内容まで行う。十分な事前学習が必要である。

テキスト

「系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2」
(医学書院)

参考文献

講義に際して適宜紹介する。

講義コード	2N471011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅲ（精神）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2204
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 郭 哲次	指定なし

担当教員

郭 哲次

講義の目的

精神疾患は原因不明の疾病が多く、疾病の表現形態も罹る個人によって多様である。我々は、診断された精神の病気自体を理解し、患者自身の困難を本当に意味で了解するのは容易ではない。こうした意味で精神科看護にあたる場合に、精神看護の必須となる精神疾患・病態の知識を身に付け、病を持つ患者に対する態度、援助法を考え学習することを目的とする。

個別の学習目標としては、患者の置かれている状況から、困難や葛藤がどこにあるかを見出すことができること、精神障害の予防や危機介入の方法、障害が疑われる人の診察、診断方法が如何になされているかについて理解できること。主な精神障害の、分類、疫学、成因、病態、症状と経過、治療の概要を理解することができることなどである。

到達目標

一般看護および精神科看護に欠かせない基本的な精神疾患について十分に理解し、臨床実習において利用可能な知識として身につける

授業計画表

授業計画

1. 総論①
2. 総論（睡眠障害含）②
3. 統合失調症①
4. 統合失調症②
5. 躁うつ病①
6. 躁うつ病②
7. 神経症①
8. 神経症②
9. 中間まとめ
10. 外因性精神障害①
11. 外因性精神障害②
12. 外因性精神障害③

- 13. 外因性精神障害④
- 14. 児童・青年期の精神障害
- 15. 総まとめ

成績の評価

最終試験80%、受講態度20%（受講態度減点対象）

自己学習

教科書を用いて予習・復習を行うこと

履修上の注意

講義はテキスト中心に、パワーポイントを用いて行なう。
テキストを独自にカスタマイズすること。講義のオリエンテーションでも説明する。

テキスト

「看護のための精神医学 第2版」

参考文献

「コメディカルのための専門基礎分野テキスト2版精神医学 中外医学社」。その他、講義中に紹介。

オフィスアワー

木曜日 12時から、約1時間（原則として事前予約が必要）

研究室

診療研究棟4階403研究室

授業用E-mail

tkaku@kansai.ac.jp

講義コード	2N472011
講義名	看護にいかず疾病論Ⅱ（急性）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2203
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井村 弥生	指定なし

担当教員

杉本篤夫 井村弥生 兒嶋章仁

講義の目的

病因・病態学で学習した知識をもとに、急激に変化が生じる疾病の病因、症状、検査、診断、治療について系統的に学習し、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。

到達目標

急激な変化が生じる疾病の病因・病態の中でも手術療法が対象に及ぼす影響を理解し、急性期の看護に活用することができる。

授業計画表

授業計画

1. 急性期の侵襲・生体反応
2. 麻酔法
3. 麻酔法
4. 呼吸器疾患
5. 呼吸器疾患
6. 呼吸器疾患
7. 循環器疾患
8. 循環器疾患
9. 脳血管疾患
10. 脳血管疾患
11. 脳血管疾患
12. 消化器疾患
13. 消化器疾患
14. 消化器疾患
15. 消化器疾患
16. 消化器疾患
17. 運動器疾患
18. 運動器疾患

19. 運動器疾患
20. 運動器疾患
21. 腎・泌尿器疾患
22. 腎・泌尿器疾患
23. 腎・泌尿器疾患
24. 女性生殖器疾患
25. 女性生殖器疾患
26. 女性生殖器疾患
27. 耳鼻咽喉科疾患
28. 口腔外科科疾患
29. 小児外科疾患
30. まとめ

成績の評価

筆記試験90%・平常点10%にて評価

自己学習

事前学習として、各テキストの解剖・生理学を復習し、理解しておく。

履修上の注意

テキストが系統別に分冊となっている。後に発表される授業計画に注意して受講する。

テキスト

系統看護学講座 成人看護学2 (呼吸器)、3 (循環器)、5 (消化器)、7 (脳・神経)、8 (腎・泌尿器)、9 (女性生殖器)、10 (運動器)、14 (耳鼻咽喉科) (医学書院)、別巻 臨床外科看護総論(医学書院)

参考文献

授業の中で適宜紹介する

研究室

保健看護学部 718号室 井村研究室

講義コード	2N473011
講義名	看護にいかす疾病論Ⅰ（慢性）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N2-2202
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 小河 健一	指定なし
教員	畑村 育次	指定なし
非常勤	水越 正人	指定なし

担当教員

小河健一、畑村育次、水越正人

講義の目的

様々な疾病の病因、症状、検査、診断過程、治療などについて臓器ごとに学習し、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。
さらに、それを踏まえた生活指導と看護を関連づけて学ぶ。

到達目標

1. 成人における慢性疾患の病態について説明できる。
2. 病態に基づいた治療・生活指導を説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 循環器疾患 (1)
2. 循環器疾患 (2)
3. 循環器疾患 (3)
4. 循環器疾患 (4)
5. 呼吸器疾患 (1)
6. 呼吸器疾患 (2)
7. 呼吸器疾患 (3)
8. 呼吸器疾患 (4)
9. 腎・泌尿器疾患 (1)
10. 腎・泌尿器疾患 (2)
11. 腎・泌尿器疾患 (3)
12. アレルギー・膠原病 (1)
13. アレルギー・膠原病 (2)
14. 感染症 (1)
15. 2

感染症（ ）

16. 脳・神経疾患 (1)
17. 脳・神経疾患 (2)
18. 脳・神経疾患 (3)
19. 脳・神経疾患 (4)
20. 脳・神経疾患 (5)
21. 消化器疾患 (1)
22. 消化器疾患 (2)
23. 消化器疾患 (3)
24. 消化器疾患 (4)
25. 消化器疾患 (5)
26. 内分泌・代謝疾患 (1)
27. 内分泌・代謝疾患 (2)
28. 内分泌・代謝疾患 (3)
29. 血液・造血器疾患 (1)
30. 血液・造血器疾患 (2)

成績の評価

試験80%・レポート（小テスト含む）10%・平常点10%にて評価

自己学習

特に授業で重要と話したところの復習は、必ず行ってください。

履修上の注意

第1学年で学んだ人体の構造及び機能について、しっかり勉強しておいてください。

テキスト

「系統看護学講座 成人看護学 4（血液・造血器疾患）、5（消化器疾患）、6（内分泌・代謝疾患）、7（脳・神経疾患）」（医学書院）

循環器疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、アレルギー・膠原病・感染症疾患の講義については各担当から資料の配付あり

参考文献

「系統看護学講座 成人看護学 2（呼吸器疾患）、3（循環器疾患）、8（腎・泌尿器疾患）、11（アレルギー・膠原病・感染症疾患）」（医学書院）

講義コード	2N476011
講義名	母性看護方法論Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N2-3202
対象学科・学年	保健看護学科・2年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝、生駒妙香

講義の目的

母性看護学は次世代の健全育成をめざし、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした看護活動を支える実践科学である。女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、対象に適切な看護を実践するための方法を学修する。

到達目標

周産期にある対象の健康状態を理解し、対象に必要な基礎的な看護援助について述べることができる。

授業計画表

授業計画

1. 妊娠の成立と胎児の発達に伴う妊婦の身体的変化
2. 妊娠に伴う心理的变化と看護ケア
3. 妊婦の日常生活と看護ケア
4. 妊娠中に起こる不快症状とリスクへの看護ケア・
5. 分娩に伴う産婦・胎児の変化と看護アセスメント
6. 産痛と産婦及び家族のニーズと看護ケア
7. 分娩進行と産婦・胎児のリスク、メンタルヘルスケア
8. 産褥期の身体的変化と適応
9. 褥婦への看護ケアの視点
10. 褥婦のフィジカル・アセスメントと看護ケア
11. 褥婦の心理社会的変化のアセスメントと看護ケア
12. 新生児とは・新生児看護の意義
13. 新生児の生理学的適応
14. 新生児のアセスメント
15. 母乳育児と看護

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する。

自己学習

指定されたテキストでの事前学習は必須である。

履修上の注意

母性看護学実習に必須な科目である、真摯な姿勢で取り組むこと。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

母性看護技術：メディカ出版

参考文献

病気が見える産科：MEDIC MEDIA

母性看護学1妊娠分娩：医歯薬出版株式会社

母性看護学2産褥・新生児：医歯薬出版株式会社

母性看護学：医学芸術社

母乳育児支援スタンダード：医学書院

妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW

マタニティ診断ガイドブック：医学書院

ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院

オフィスアワー

随時可能も事前に予約の事

研究室

C703研究室 田中静枝

C717研究室 生駒妙香

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp